議事概要

令和6年度 新潟市放課後子どもプラン推進委員会

日 時： 令和7年2月14日（金） 午後3時00分～4時30分

場 所： 東区プラザ 2階 講座室4

出席者： 新潟市放課後子どもプラン推進委員

加野委員、川口委員、長谷川委員、山田委員、脇野委員
事務局

生涯学習推進課3名、こども政策課2名

傍聴者： なし

1 開会

2 生涯学習推進課長あいさつ

3 委員自己紹介

4 委員長、副委員長の選定

5 議事

(1) 令和6年度事業実施状況および今後の取り組み

(事務局) 案件概要説明

(脇野委員長)

「本日は、令和6年度の事業実施状況と今後の取組について話し合いたいと思います。この会議は、何かを決める場というより、皆さんから自由に意見をいただいて、それを事務局が来年度の検討材料にする場です。気楽にいろいろ発言してください。」

(川口委員)

「当校では、週3回（月・水・土）ふれあいスクールを開催していて、子どもたちにとってとても良い時間になっています。ただ、ボランティアの方々の負担も大きく、高齢化が進んでいることが課題です。最近土曜日のボランティアとしてお父さんの参加が増えました。」

また、中学生ボランティアの活用についてですが、安全管理の面で不安もありましたが、小学生が高学年のうちから運営に関わる機会を増やすことで、中学生になったときにボランティアとしての参加につながるのではと期待しています。」

(山田委員)

「私も中学生ボランティアに注目しました。木戸小学校では、東新中の先生に相談したところ、部活が忙しくて難しいという声もありましたが、小学校6年生のうちから関わりをもたせることで、つながりができるのではないかという話がありました。

また、ふれあいスクール事業研修会に参加して感じたのは、ふれあいスクールの開催回数が減っていることです。土曜日に開催する学校が減っている一方で、土曜日だからこそ参加できる保護者も多いので、工夫しながら継続していきたいと思っています。」

(長谷川委員)

「うちの学校でも中学生ボランティアの導入を考えていましたが、下校の関係で難しい面がありました。また、土曜日の活動が縮小していて、参加する子どもが少ないのも課題です。

ただ、大学生や専門学校生のボランティアが入るといいという話が前回も出ていました。今年は協力要請を進められたのは良いことだと思います。今後も地域との連携を強めていきたいですね。」

(志田委員)

「夢みたいな話かもしれませんが、中学・高校とボランティアで関わっていく流れができると、地域への愛着が深まり、教育力の向上にもつながると思うんです。小学校を卒業したら地域との関わりがなくなってしまうのはもったいないので、継続的な関わりが生まれると素敵ですね。」

(脇野委員長)

「ふれあいスクールの運営には PTA の協力も不可欠ですが、最近では PTA のあり方自体が変わってきていますよね。何かご意見があればお願いします。」

(川口委員)

「うちの学校では、ふれあいスクールは PTA と共催という形になっています。ただ、『誰がやるの？ 私じゃないよね』という意識がある人もいて、運営側と利用者側の意識の差が課題になっています。」

(山田委員)

「木戸小学校でも、コロナ禍で PTA の活動が一時止まったことが影響して、ふれあいスクールとの関わりが薄れてしまった面があります。PTA の行事ごとに担当が決まっています。『ふれあいスクールには人を出せません』と言われることもあります。

でも、入学説明会では、校長先生がふれあいスクールの活動動画を流してくださり、保護者への周知が進んだのは良かったと思っています。」

(志田委員)

「PTA の活動の中に、年に 1 回はボランティア活動に参加するという仕組みを取り入れ

ている学校もあります。ふれあいスクールへの参加をその一環にすると、少しずつ保護者の意識も変わってくるのではないのでしょうか。」

(長谷川委員)

「PTA という言葉自体にネガティブなイメージをもつ保護者も増えています。学校が関わっていると、『じゃあ学校がやってくれるならお任せでいいよね』という考えになりがちなので、伝え方を工夫することも大事ですね。」

(加野委員)

「社会福祉協議会の加野です。今年度、こどもの居場所に関するアンケートを実施しました。小学生は、ひまわりクラブや家庭での時間を居場所として挙げる子が多かったのですが、中には『本当はひまわりクラブに行きたくないけど、親が仕事だから仕方なく行っている』という子もいました。

中学生になると、部活に入っていない子が放課後の居場所を見つけられず、『どこにも行く場所がない』と感じているケースもありました。公園に行くのも、小さい子がいるから遠慮してしまうなど、選択肢が少ないことが課題になっています。」

(脇野委員長)

「なるほど。中学生ボランティアの話とも関連しますね。放課後の選択肢が多様になることで、子どもたちが自分らしく過ごせる環境が整うのではないかと思います。」

(山田委員)

「ふれあいスクール事業研修会で、ある県では、放課後の時間をふれあいスクールと児童クラブで分けていて、例えば『〇時までは全員参加のふれあいスクール、その後は有料の児童クラブ』という形を取っているという話を聞きました。そういった仕組みがあると、すべての子どもに放課後の居場所が提供できるのではないかと思います。」

4. まとめ

(脇野委員長)

「皆さんの活発な意見交換、ありがとうございました。」

PTA との関わり方や、ボランティアの活用、放課後の居場所づくりなど、重要なテーマがたくさん出ましたね。地域の協力を得ながら、時間をかけて浸透させていくことが大事だと感じました。

今後も事務局で良い事例を共有しながら、より良い方向に進めていきたいと思います。それでは、本日の会議を終了します。ありがとうございました。」

(司会)

「以上をもちまして、令和6年度新潟市放課後子どもプラン推進委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。」

【配布資料】

- ・令和6年度 新潟市放課後子どもプラン推進委員会 次第
- ・令和6年度 新潟市放課後子どもプラン推進委員会 資料